



中高生とともに差別と闘う

『峠』と縮毛矯正

吉成タダシ (うずしおブランチ代表)



学校の人権課題とは

四月、昨年度受け持っていた学年を引き続き受け持つことができませんでした。一年、二年、三年目です。継続して人権学習に取り組むことができそうで、ホッとしています。

本気で人権学習に取り組もうとしたとき、できれば三年間、体系的・計画的に、継続して取り組みたいものです。体系的でも計画的でもなく、継続性もないと、せっかく育とうとする若い芽を摘んでしまうようで、残念としか言いようがありません。でも私たち教員は、あくまでも一年一年が勝負です。続いて翌年もその学年を受け持てるとは限りませんから。とはいえ進級した学年ごとに学習内容がコロコロ変わることは、子どもたちにとっても良くはありません。やはり体系的・計画的な人権学習を、継続して取り組むことです。ということは、その学校の持つ人権課題を的確に抽出したうえで、その課題を解決するためにどう取り組んでいくかという方針があり、それをすべての教員が共有しておく必要があるということになります。

人権課題は、どこの学校にもあります。学校によって個別課題の違いはあるにせよ、間違いなくあります。ですから、どこの学校でも取り組んでいく必要があります。ですが、現実にはなかなかそうなってはいません。教員が異動したり、各個人の思いのなかで学校の人権課題が共有されなかつたり、体系的に取り組まれるはずの学習内容が継承されなかつたり。教員の認識や、管理職の的確なりー

ダーシップが絶えず必要になってきます。

受験期だからこそ

一〇代前半において、女子は割と早い時期から大人びた成長を遂げるように思います。捉え方や考え方もしつかりとし、場に応じた対応や発言もしつかりできます。

ところが男子はというと、どうしても幼さが勝って、なかなか女子の成長に追いつきません。なかには女子にも負けないような思考力・発言力のある男子もいますが、どちらかと言えば稀です。それが追いつくようになるのが、中学三年生くらい、つまり十五歳くらいでしょうか。おそらくそういう発達段階なのだと思います。そして卒業くらいになって、ようやく男女の成長が全体的に同じくらいになる。そんな感じですが。だからこそ、中三の二期期を一つの目標地点に置いて、「自分を語る・自己を表現する人権学習」に取り組むことに、大きな意義があると考えます。

ところがそのタイミングは、ちょうど進路選択の意識が高まる時期でもあります。ですから放っておくと「余計なことはやっつけられない」となってしまいがちです。それでも敢えて、だからこそ「みんなで語り合う人権学習」に取り組むことを教員仲間にも説きます。

進路選択に悩む心情、思うように成績が上がらない不安、学習に身が入らない焦り、苦しい思いをすることへの孤独感、それらの思いと

今まで学んできた様々な人権学習とを重ね合わせ、自分たちが今、何を考えどう行動すべきかを見つめ、語り合うのです。そのことが互いの励ましとなり、語り合う時間をもつことの必要性や重要性を実感することにつながるのです。この時期の子どもたちが求めていることは、そういう時間なのだと思います。

『峠』と縮毛矯正

新年度の四月。これまでの二年間の思いを込めた、第一回学年全体人権学習を開催しました。資料は、真壁仁さんの詩『峠』です。私たちが長年大切にしてきた学習教材です。詩のなかの惹かれた言葉や内容と自分を重ね合わせ、それぞれが自分のことを語りはじめます。

授業冒頭、印象的な発言がありました。

*

私は、「すぎ来し道」がとても心に残りました。

私には一つ大きな悩みがあつて、それは肌のこととか髪のことです。私は家族のなかで私だけみんなとは違って、肌はすこい乾燥とかして、髪もすこいねつたり、ちりちりになって。なんでみんなとは違うんだろうとか、なんで自分だけこんな苦労をしないといけないんだろうとか、何回も思いました。それで一回母に八つ当たり的なことをしてしまつて。今思えば、産んでくれた人への何を文句言つてたんだろうとか、凄

でもこのことをきつかけに、縮毛矯正をすることになりました。一番初めにかけたときは、凄じ自分の髪じゃないみたいとか、いっぱい思いました。今でも凄くうれしかったのを覚えています。

*

一見、何の変哲もない発言のように聴こえるかもしれませんが、しかし、このことを公に語つたのは初めてであつたと、後に彼女は言いました。

実はこの少し前に、私は彼女と髪のことについて話をしています。それこそ、ここで発言されたような内容についてです。「それは人権だね」と言う、「これも人権なんですか?」と。こういった個人的なことを出し合つて初めて、その人の「人となり」が分かつてくる。それが分かることが、まず大事な第一歩なんだと話をしたように記憶しています。

周りの子たちにすれば、髪がちりちりなのは、見ればすぐに分かります。でも、そんななかでどんなふうにも悩み、どんな出来事があつて、今どんな思いで過ごしているかは、聞いてみないと分かりません。聞いたからといって彼女の周りの関係性が劇的に変わることはないかもしれませんが、それでもこれらは、彼女にとっても周囲にとっても、大切なプロセスなのだと思います。そんな思いを積み重ねていきたいのです。

この日の全体学習の感想に、ある女子生徒が、次のような感想文を書

(つづく)